

区画整理地内での生活道路（区画道路）について

■ 道路について

● 道路の種類と役割

道路の種類には様々な役割があり、その中に区画道路も位置付けられています。

≪ 道路の種類 ≫

大区分	中区分	小区分
自動車専用道路	高速道路	都市内高速道路 都市間高速道路
	その他の自動車専用道路	一般有料道路
一般道路	都市間道路	国道、主要地方道 等
	都市内道路	主要幹線道路
		幹線道路
		補助幹線道路
		区画道路 特殊道路
広場等	駅前広場	

≪ 区画道路の役割 ≫

○ トラフィック機能

地区内交通の処理、沿道宅地へのアクセス確保

○ 空間機能

上下水道などのライフライン空間

日照、通風等の生活環境保全

○ 街区形成機能

一定規模の住宅地等を道路で区分し、街区を形成する機能

○ 防災機能

災害時、緊急時の活動を円滑化

(緊急車両の進入路、延焼防止、避難路、避難場所等)

● 設計の基準

① 区画道路の配置

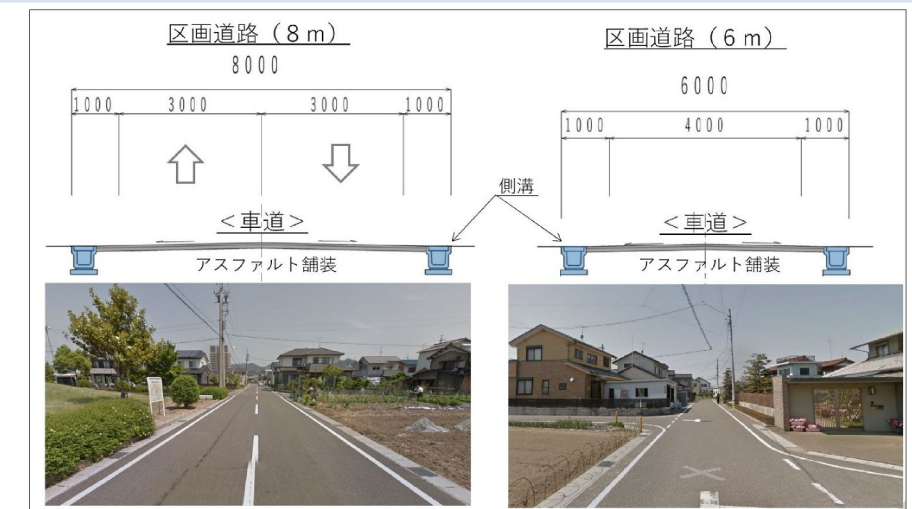
周辺地区と地区内で発生する交通を円滑に誘導するため、街区構成に配慮して道路を配置します。また、全ての土地が道路に接するように配置します。



② 区画道路の幅員

緊急車両が活動可能な道路幅となるよう計画します。

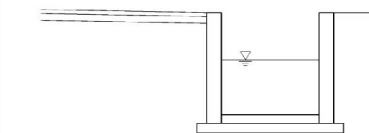
道路の両側に側溝を設けることにより、雨水が宅内に侵入するのを防ぎます。また、アスファルト舗装、区画線等の路面表示により走行性及び安全性を確保します。



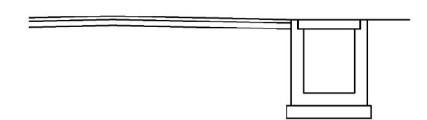
③ 水路

必要な箇所に水路を設け、側溝からの水を集約し、調整池へ流します。蓋のないオープン水路や、道路を広く活用できる蓋つき水路等があります。

≪ オープン水路 ≫



≪ 蓋つき水路 ≫



※水路の例

④ 調整池

地区内に降った雨を一時的に調整池に貯め、地区外へ流すことにより下流への影響がないようにします。

≪ 施設兼用調整池 ≫

(地下貯留式)

敷地を有効に活用するため公園等の下に設けたもの。

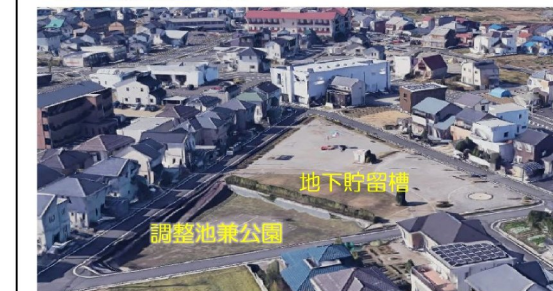
(オープン貯留式)

公園の一部を切り下げて調整池兼公園としているもの。

≪ 専用調整池 ≫

調整池のみの機能を有したもの。

≪ 施設兼用調整池 ≫



≪ 専用調整池 ≫

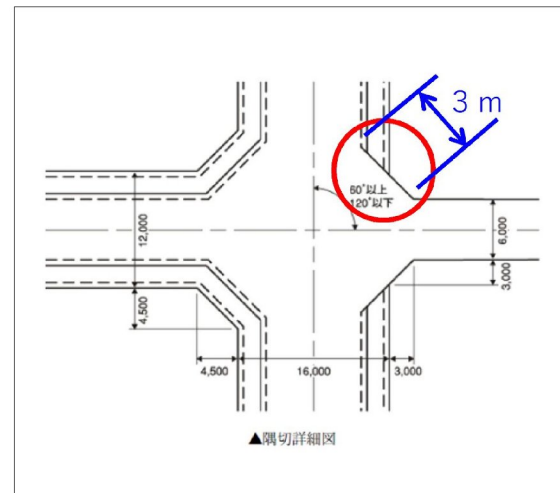


⑤ すみきり

直角に交わる道路の曲がり角部分について、道路幅が6 mの場合、基本として四隅を3 m切り取ることで、車両や歩行者の十分な見通しを確保し、円滑な通行を確保します。

【土地区画整理法施行規則 第9条 第五号】

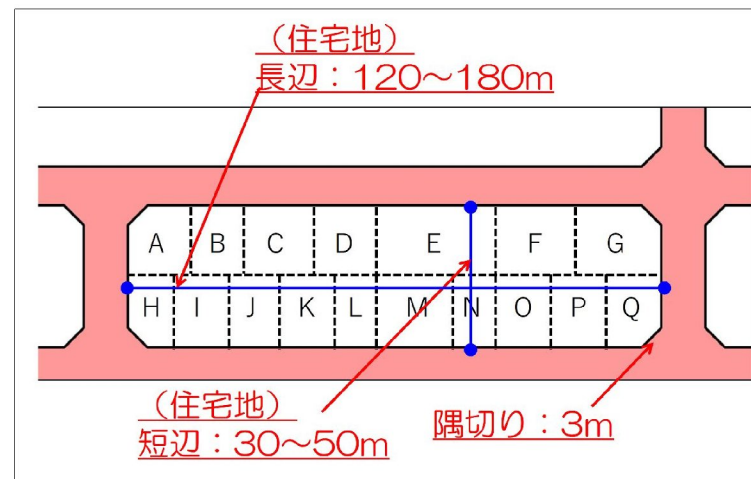
道路（裏口通路を除く。）が交差し、又は屈曲する場合には、その交差又は屈曲部分の街角について適当なすみきりをしなければならない。



⑥ 街区形状

良好な住宅地等の形成に適した街区形状とするため、長辺及び短辺について、適切な距離を確保します。

住宅地や商業地等、使用目的に応じて設定します。



⑦ 公園

地区内人口1人当たり3㎡以上かつ地区面積の3%以上を確保します。

【土地区画整理法施行規則 第9条 第六号】

設計の概要は、公園の面積の合計が施行地区内に居住することとなる人口について一人当たり三平方メートル以上であり、かつ、施行地区の面積の三パーセント以上となるように定めなければならない。

